**アマミノクロウサギ観察小屋**

アマミノクロウサギ観察小屋は、アマミノクロウサギの研究を行う施設で、来訪者のための情報源でもあります。アマミノクロウサギがこの地域にやってくるのを促すため、近隣にはこのウサギが好む植物が植えられており、また、職員はウサギが使うトンネルをつくりました。*アマミノクロウサギ*は夜行性なので、日中姿を目にすることはまずありません。しかし、観察小屋の裏手と小屋に隣接する南部ダム貯水池のそばに設置されているビデオカメラがウサギたちの活動を記録しており、小屋の中でその映像を見ることができます。

アマミノクロウサギ観察小屋は、COOL JAPAN AWARD 2019 National Park部門を受賞しました。

**アマミノクロウサギについて**

夜行性のアマミノクロウサギは徳之島と奄美大島の固有種です。黒い毛皮、短い足、穴を掘るための大きな爪を持つ、比較的ずんぐりしたアマミノクロウサギは、かつて大陸部のアジアに生息していた先史時代のウサギの子孫です。成長すると、体長は50cmほど、体重は最大3kgになります。

アマミノクロウサギは森に生息し、草や大きなどんぐりを主食とします。多い時で年2回繁殖し、うさぎとしては珍しく、一度に１頭だけ（時に2頭）子を産みます。母うさぎは、採餌に出かける際、巣穴の入り口を土で覆い、植物でカモフラージュします。母うさぎは子うさぎと離れて生活し、平均して一日おきに巣穴に戻って世話をします。

アマミノクロウサギへの環境圧には、人間による生息地への侵入や交通事故、野良猫や野良犬の個体数の増加などがあります。アマミノクロウサギは希少野生動物種に指定されています。保護活動の成果もあり、徳之島における個体数は現在推定200～300頭で安定しています。